

# 広報かわにし

## 大雨の被害一億円

### 始まった復旧対策

七月十一日夜半から十二日朝にかけての豪雨は、わが町に空前の被害を与えて過ぎ去った。「またやられた」というよりほかはない。町では中村町長みずから現地を急行したのをはじめ、係や議員が現場を視察して善後策を協議し、役場職員を動員して被害力所の調査にあたった。この結果町議会でも国・県・町費の災害復旧補助対策を審議して、これが早急に復旧実現できるように、いま関係者の間で準備をすすめている。きょう現在で判明した被害総額を推定すると、農林関係で七千万円、土木関係で三千万円(県道二千万、町道一千万)合計一億円といういまだかつてない額である。

### 橘、仙田は被害甚大

この日の降雨量は地域によって差がはげしく、千手一〇七ミリ、上野一六八ミリ、橘二一六ミリ、仙田二二三ミリを記録したが、これは昨年九月十二日の一〇五ミリ(千手発電区)に比べると、さつと二倍の雨量であり、それだけに水田の流失や埋没をはじめ、土砂くずれなどが続出して目もあてられぬ惨状だった。農家の人たちにとっては全くお気の毒な雨だったが、それはかりではない。道路が寸断されていっさいの交通機関までと絶し、ま夏だというのに離れ島の悲哀をなげかせたのである。千手や上野では田代・山の根な

どをのぞくとさほどのこともなかったが、仙田や橘の被害は大きかった。とれ秋の収穫だけならまだしも、耕地の大半を失ってどうしたらよいかわからず、いまだにポーン然としている農家も多いという。「今までの苦労が水のあわ、あの雨さえ降らなかつたら」と、文字どおり通り魔のうらみは深いわけである。

本紙にも仙田のK氏をはじめ、「川西農民に乙旗がある。災害に負けるな。」という意味の投書が数通寄せられているし、町のあちこちにも復旧に立ちあがった力強い姿が見られる。このさき、わびを転じて福となすべく、みなさんのご奮闘を期待してやまない

発行所	川西町役場	吉作社
発行者	川西町 中村幸五	部5
編集人	町長 金子南	1部
印刷所	白鳥	1部
印刷	印刷所	1部
定価	1部	1部
人口	1,490	4人
現在	7,954	4人
8月1日	7,560	0人
男女計	1,490	4人
世帯数	2,762	世帯

### 被害推定額(土木係)

- 県道の埋没欠損 二四万所 四九五米
- 町道の埋没欠損 八五万所 五〇〇米
- 橋の流失 二(仁田・越ヶ沢)
- 堤防欠損 五万所 一五〇米
- 農林道の埋没欠損(農林係分) 六五万所 三五〇米
- 国費負担による応急工事費 一一〇〇万円
- その他の復旧工事費 一九〇〇万円

### 被害見込額(農林係)

- 水田埋没 三八・一ヘクタール
- 水田流失 七・八ヘクタール
- 土砂流入 二二・二ヘクタール
- 冠水浸水 六八・一ヘクタール (一ヘクタールは約一町歩)
- 水稲の減収 一四四三石 (全収量の五パーセントにあたり、一四四三石の損失となる)
- 畑作の減収 二〇〇万円
- 復旧に要する費用(見込額) 六三万所
- 国庫補助事業対象 一七〇〇万円
- 県費補助事業対象 二二万所 一八〇万円
- その他の復旧費 三四七万円
- とくにひどかった部落 中仙田・小白倉・原田・根深・野口・木落・大白倉・室島・岩瀬・赤谷・寺ヶ崎・塩幸

## 町づくり

### 離農転出者に思う

住みなれたふるさとをあとに、家をあげて町を去る人たちがふえている。そしてこの現象は数年前からつづいてきた。春からの動きをみても、従来の土地を売り払って転出する人は多い。「この益が終わったら引きあげたい。」という家も何軒かあるようだ。

▲何百年このかたなじんできた父祖の地を捨てて、見知らぬ土地に雄飛するのはどういふよ。よくよくの覚悟が必要であらうし、それ相応の理由があつてのことであらう。しかもそのほとんどが、町場へ、都へと出てゆく農家の人たちであることはたまたまなくさみしい。

### 水泳ぐ子等

「ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず」とか、鎌倉の時代に生きた人のことばである幼き日、だれもが訪れた夏のバラダイふるさとの川。

喜々としてたわむれ水泳ぐ子らも、時の歩をうつして移り変わる。古きは去り新しきはきたる。いま泳いでいるのは三十年、四十年前同じこの川に遊んだ人たちの子であるうか、係であらうか……。



(写真は信濃川に泳ぐ子ら 木暮にて 押木秀治撮影)

▲村の一級地が格安で売りに出されても、買手がつかないといつてなげかれていた部落があるという。これまで苦楽をともにしてきた人たちが、こうしてつきつぎと村をはなれてゆくのである。いったいなせ町を出なければならぬのだろうか。

▲現状でも食うためには事を欠かない農家が、より以上の「しあわせ」を求めて転出する場合は別として、土地の風習やしきたりにこれ以上耐えきれず、生活の苦しさをからどうにも動きがとれなくて出てゆくのだという気がする。

▲あるオトトは、「これは喜ぶべき現象といわなければならぬ。いまのオラの村は、少ない耕地に比べて人が多い。部落の人口がいまの半分になってくれば、暗いうちから起きて五キロの山坂を歩いて、その上にヤセ地を耕すような苦労がなくなる。やりくり心配がなくて、さしたる努力を必要としない農業経営は夢なのだろうか。」と。そしてこの夢が実現しなかつたら、オトトもまた町場に出たいというのである。

▲ネコのヒタイほどのせまい妻有の盆地に、貧しい苦しい生活を続けて、それを宿命だとあきらめてきた農民たち(十日町新聞・二月二十八日号)、そこには現代人として生きてゆくための、必然的な何かがあるのかもしれぬ。

▲そしてこの何かは、「この土地を出さずには農家の宿命から解放される。」という理由であるなら、わたくしたちはその宿命を開拓して、住みよき明るい町をつくらなければならないだろう。

# 七月の教育委員会から 学校統合に教委が本腰 教育五カ年計画に着手

いまかりに、慢性虫垂炎で苦しむ患者がいたとする。この病人は早く手術をすれば健康な体になれることを、たれよりもよく知っていた。それなのに切開の苦痛を恐れ、まじないや内服薬に頼っているうちに命を失ってしまった。いったいそれを責めるべきであろうか。まことに失礼な話ではあるが、町を患者にたとえたい。主治医は教育委員会、そして病名を「学校問題」という。「キミは平和な町に乱を起させると立腹する御仁は、この記事を最後まで読んでいただきたい。」

## 統合を含めた 五カ年計画に

「川西町教育委員会は、いま学校教育の諸問題を、根本的に検討しなければならぬハメにきている。…」着任以来四月、ようやく管内の巡視を終った杉本教育長が、七月の定例教育委員会ですしむとらしたことは、あつて、高橋委員長をはじめとして、小幡義布(橋)小林誠治(仙田)上村省司(上野)の各委員が、町づくりの最大のヤマであるといわれる学校問題に、全力をあげてとりくむことになった。教育委員会としての立場であらゆる角度から検討を重ね、学校統合を含めた教育五カ年計画を樹立して、町当局に通告することを決定したのである。

これより先、町議会でも学校統合推進を決議(本紙第五号に既報)し、目下慎重に検討中であるだけに、この計画に本腰を入れはじ

から「教育課程の改訂に伴う移行措置の取り扱い」というむずかしい通達が出された。これによると小学校は三十六年度から、中学校は三十七年度から、それぞれ「学校教育課程の改訂」が行なわれることになる。一例をあげると、いま中学校一年で取り扱われている数学の教材が、三十六年から小学校の五、六年で行なわれる、という結果になり、また中学校の職業家庭科の教材も大きく変わって、産業技術面の教育が重視される。というように、かなり高い学習内容に引きあげられる。だから期間のずれによっては、分数・小数などの計算を学習できない、という生徒が出てきたり、中学校の教材施設がそろわなかったりして、十分な教育効果を得られない場合が予想される。そこでこれに備え、今からしっかりと、教育五カ年計画を樹立しなければならぬ。というところになるわけである。

## 教育課程の改訂 三年後の小中学校に

なせ教育五カ年計画を樹てなければならぬのか、その理由はこうである。ことしの四月、文部省

## 現状では行きづまる 学校統合こそ打開の道

ここで学校教育の現状に目を向けてみよう。いま町では、上野小学校屋体の建築や、上野中学校の増築、千手中学校の特別教室などをはじめ、たくさんのお願事項を審議しているが、どれもこれも必要にせまられたものばかりである。しかし将来の児童生徒数に目を注ぐと、①現在七カ校二二二六名の小学生が、三年後には四六五名減少した一八六名となり、昭和三十七年度以降は安定した児童数

## 住民の理解が先決

これまでハレモノにさわるようになってきたこの問題を、なせとりあげねばならなかったか、これ以上申しあげるとなるとなろう。各学校からつきつきと持ち込まれてくる諸願を、いちいち無計画で受け入れていくと、やがては動きのとれない日がやってくる。町の学校問題も、もつこのへんでしっかりした線をうたさなければ、絶体絶命というハメに追いこまれたといったら過言だろうか。それだけに「この教育にかけては町のオ二になる」という教育委員の、強い決意がうかがわれる。そしてこの問題の解決には、われわれ住民のよせる正しい理解が、何よりもたいせつなのである。どの学校をどう統合することになっても子どもたちのよりよい教育のために、町の将来のためにとなされる

変わりが無い。④したがって教師は専門外の教科まで担当しなければならぬ。⑤しかも前述のように教科内容が向上される。⑥いきおい十分な教育がでなくなる。⑦それで子どもたちがかわいそうだという見かたが成りたつてくる。したがって町財政の面からも、近い学校は統合してりっぱな施設を備え、りっぱな職員によってよりよい教育を進展させる。という線がうちだされるわけ。そこで学校統合を前提とした教育五カ年計画を樹立し、これを強力に推進して行きつづまりを打開しようというものである。

## 戸籍の窓から (七月分)

- 町公民館では、県から増井・佐藤・重野の三講師を招き、八月下旬に新生活運動指導者養成講習会(仙田地区)を開催する。会場は仙田中学校。千手・上野・橋で実施する。これから、これが終わると、全町に「新生活運動指導者」が養成されたことになる。
- なほこれにつき、月末までに「訪問集会のリーダー養成講習」を実施する予定。
- ことしの盆おどり大会(公民館主催)は、八月十四・五・六日の三日間、午後八時から十一時まで千手中学校のグラウンドで行なわれる。
- 全町仮装大会(商工会と公民館共催)は、八月十八日午後八時から十時半まで、町のメヌキどおりに千手農協前から松葉屋前で行なわれる。参加者は自由。
- 七月災害による県道仁田地内の復旧は、九月中旬から本工事に着手する。完成は十一月月中旬の予定だが、期間中上回路として旧県道を利用するため、いま仁田橋の復旧工事(請け負いは丸山工務所)を急いでいる。
- 新町に赤痢が集団発生(十一世帯・十七人)したが、係や部落の機敏な処置でその後の発生を見なかつたのは幸いだった。
- 手洗いを励行しハエやカを撲滅し暴飲暴食をやめて、もう赤痢は出さないことにしよう。

## 町の掲示板

- 町公民館では、県から増井・佐藤・重野の三講師を招き、八月下旬に新生活運動指導者養成講習会(仙田地区)を開催する。会場は仙田中学校。千手・上野・橋で実施する。これから、これが終わると、全町に「新生活運動指導者」が養成されたことになる。
- なほこれにつき、月末までに「訪問集会のリーダー養成講習」を実施する予定。
- ことしの盆おどり大会(公民館主催)は、八月十四・五・六日の三日間、午後八時から十一時まで千手中学校のグラウンドで行なわれる。
- 全町仮装大会(商工会と公民館共催)は、八月十八日午後八時から十時半まで、町のメヌキどおりに千手農協前から松葉屋前で行なわれる。参加者は自由。
- 七月災害による県道仁田地内の復旧は、九月中旬から本工事に着手する。完成は十一月月中旬の予定だが、期間中上回路として旧県道を利用するため、いま仁田橋の復旧工事(請け負いは丸山工務所)を急いでいる。
- 新町に赤痢が集団発生(十一世帯・十七人)したが、係や部落の機敏な処置でその後の発生を見なかつたのは幸いだった。
- 手洗いを励行しハエやカを撲滅し暴飲暴食をやめて、もう赤痢は出さないことにしよう。

お盆やお祭りが近づきました  
あなたはねらわれています

- 野沢利幸(男二男)野口滋野(吉雄二男)野口藤巻貞子(喜二女)寺ヶ崎山田裕司(良太郎二男)仁田野沢寿雄(三郎長男)野口上村保弘(晴夫長男)上野村越郎(盛之助三男)上野上村鉄郎(郡司長男)上野高橋伊美子(貞雄長女)山野田高橋俊幸(正五郎長男)坪山敏之(寅蔵二男)中屋敷片桐幸子(繁行長女)小白倉片桐保宏(保栄長男)小白倉茂野美佐子(武治四女)室島保坂正子(理二女)大白倉岡島美江子(光好三女)大白倉
- たかさこー御円満にー
- 泰野寅蔵(仁田)金子キクエ(元町から)江口政義(小白倉)江口サツ(小白倉から)小林功七(中仙田)小林輝子(中仙田から)桐生茂(大白倉)片桐幸(大白倉から)
- 昇天ー御めい福を祈るー
- 星名重司(六一)元町若山昌子(五)新町村越りト(七六)野口市川イト(七五)平見星名ハル(八二)伊友友(洪川ツル)六九)発電所通り田中龍松(八二)小白倉丸山ミネ(五五)中央町樋口興治(六八)中仙田青木三津子(一)田戸青木太郎吉(七五)小脇片桐良治(三〇)大白倉

川西町八公衆衛生推進委員会

### 匿名でテレビ七台を寄贈

#### 今度は千手の篤志家が

匿名でテレビを寄贈した佳話がお忘れなさい。またまた町の篤志家(特に名を秘す)によって、七台(千手小学校に三台、千手中学校に三台、町中央公民館に二台)のテレビが寄贈された。

「これだけは記事にしてくれるな。」という寄贈者の御意向ではあったが、あえて掲載させていたのは、みなさんといっしょに心からのお礼を申しあげたいからである。

千手小学校(富永 男校長)と千手中学校(榎原平校長)ではことしの春PTAが主体となり、テレビ聴視施設の実現を目標として、これまで父兄に働きかけてきた。

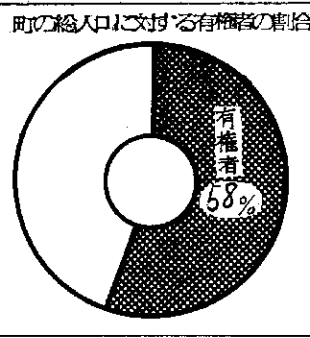
思ひもかけず七台のテレビを贈られた千手は、いま感謝のことはあふれている。それはよき町民となつて、この名知らぬ人の善行に報いようとする善いことばでもある。しあわせに勉強をつづける子どもたちも、いつかはきつと、某氏の御厚意に感えるたけの人間に成長してくれるだろう。

### あなたの一票は

#### 正しかったか

四月の統一選挙から六月の参議院議員選挙まで、三月にわたった選挙も終わって、新しい県知事県議会議員、参議院議員がその職務につきました。

わたしたちの選んだ人たちはいまだのように働き、これからどうな政治を行なってくれるでしょう。



うか。為政者の行動をよく見きわめて、よりよい生活ができるように協力してゆきましょう。

「あなた任せの政治」に慣れた習性を改めて、政治に関心をもちたいものです。そのためには日頃のマスコミを通じたり、社会教育の面からも話し合い活動を盛んにしたりして、みんなで公明選挙運動を推進し、政治的常識を養ってゆかなければなりません。

町選挙管理委員会でも今度選挙の結果を批判検討していますが、できるだけ世論を尊重し、投票所の管理運営面につまみしても、改めるべきことは改めてゆきたいと考えております。

またのべき選挙は、わたくしたちにとって一番身近な関心の深いものばかりです。今から十分に心を

### 新生活運動に一言

上野の二青年(本紙の第六号)が、その後の新生活運動はどうなつたか。と心配していたが、まことに同感だ。この運動が叫ばれたころ、わたくしたちの青年

国でも推進委員会をつくり、いくつものスローガンをかけて熱心に呼びかけたものだった。しかし村のおとなたちは、青年の理想を喜んでみかえ

### 町の声

てはくれなかった。一例をあげてみよう。いっしょに推進員だった年上の人たちが、結婚するときと切々と話してくれ

たことばがある。「あのときみんな力を合わせて、村の結婚改善について話し合い、オラのときは

してください。明るく朗らかに、梅のないりっぱな選挙ができるように、川西町が住みよい町として育つてゆくように努力してください。(選挙管理委員会)

### 庁内めぐり(9)

#### 土木係の巻

庁舎の三階事務室にあって、町づくりのツチ音を身じかに感じさせてくれる係。毎年度の町予算で約八パーセントを占める七百万の土木費は、そのほとんどが道路の修繕改修や橋のかかけ、災害復旧費などに注がれているが、それ

だけ国や県を相手とするのも多く、また陳情やけいし交渉に攻められたりして、事務的な面にも

もっと合理的な、簡素な方式でやることが多い。しかし、自分が現実の問題にぶつかってみたい。すべてを夢として、両親や村の衆のいうことをすなわに受け入れるよりしかたがなかった。

「と口をそろえて言ったのである。わたたくしはここに大きな問題があったと思う。そこで、あれほど熱心だった人たちがなぜ実行でき

なかつたか。たれも「それはいいことだ。しかし」という新生活運動を、なぜ推進できなかったか。と

いうことについて考えた。そして因習を改めるには、若い若きも

部署が一体となって進まないかきり不可能であることをさとした。青年の夢や主張が、結婚によつてかき消されてしまつたような村は

ギセイの大きい仕事だといえる。合併以来すでに四年、これまで過渡期だった町の土木行政も、いよいよ百年の大計を立てる段階に入ってきた。しかし、いまだに協

力性の乏しい地区のあることがこの事業のガンだともいわれ、道路

拡張のための買収費や物件の補償などによるイザコサが、この係にとって最大のなやみであるという。増田係長(室島)は、合併まぎわの仙田村でりっぱに助役を勤めてくれたオトト。ずしりとした係長タイプもすっかり板についたし、九十九ルーマンの輝きもいまひといきで一ルックスに切り替わる

といったところ。「ハテ困ったずや、金さえあれば何のことはないがの...」と、ときには頭をかかえることもある。

いやだ。そうかといつて、これらの圧力をはねかえす力のないわたくしたちが、また弱いかもしれないのだが...。いづれにせよ理想期にある青年と、これまでの生活に経験の深い年寄りやオトト、オカカがよく話し合い、力を合せて進んでこそ、はじめてこの運動の進展が可能だと思ふ。

幸い県の指定町村になったのを機会に、わたくしたち青年もちゃんとカンパツチゆきたい。おとうさんおかあさんがたの協力を切に希望する。(小白倉・一青年)

◎投票には住所氏名・職業年令を明記してください。ただし紙上匿名はさしつかえありません。

◎事実と違うことや、相手の名誉を傷つけるようなものは掲載いたしかねます。

青木三郎氏(十日町)は小脇の産。かつて郡市の青年大会には、仙田村青年団ありとばやされたものだが、いまもって往時の名団長ぶりを知る人は多い。ソツポで気が強いとはいっても、それは氏をよく理解しない人のことは、理非曲直をわきまえたシンの強さは、この人の良さのすべてだ。

山口芳蔵氏(仁田)は、「飲むことだけがとりえて...」とひかえめにけんぞんする人。学校や診療所建築の現場監督として庁舎に不在がちのことが多いが、町の建造物がつきつきと生まれるカゲには、氏の人知れぬ苦労が秘められている。

権間富雄氏(伊友)は土木の手腕家。それでいてややお人よしだといわれるゆえんは、他人の意志を尊重しすぎるためか。人間的には不実行型で、心の細かいろこウな人である。いま青春に悔いなしと見たは筆者だけのヒガ目かもしれない。

小川広一氏(赤谷)は春秋に富んだ青年。このころメツキリおとなになってきたが、なかなかの社交家だとはもっぱらのうわさ、心のもちかたいかんではうんと伸びるセンスがある。高祖母(四代前)

の弟が、永平寺貫主として知られた家宗禪師に当たっている。小見可江さん(おみよしえ・永久公舎西)は水上温泉でうぶ湯を使った。ここでは土木の花だが、あまりの熱心さから愛顧も知らずによく勤めるといふ。ハギレのいきいきした標準語が、この人のお

いたちをしのはせてくれるかのようだ。(失言多謝)

い

# 実施は十一月から

## 待望の国民年金制度

さる四月、国民が久しく待望の「国民年金法」が成立して、いよいよ十一月から実施されることになった。以下この制度についての概要を述べてみる。

現今ほとんどの人が働くことにより生計を維持し、家庭生活を営んでいるが、老齢になったり、思わぬ災害で一生涯おろめケガをしたり、一家の中心である父や夫を失って母子家庭になったり、といった人たちに年金を支給して、その生活を保障しようというのがこの国民年金制度である。

この制度はあらかじめ一定の保険料を納め、それに応じて年金を受ける仕組の拠出制を基本としているが、現在すでに老令・廃疾・又は母子の状態にある者や、保険料を納める能力が乏しい人は、この拠出制の年金を受けることができないので、これらの人には経過的、補完的に無拠出年金を支給することとしている。

### ・制度のあらまし

これまで各年金制度からとり残されていた国民の、大半を占める農民・自営業者・零細企業の被用者などが、この制度によってこれこれでも、年金を受けられるようになったのである。

### ・適用対象と保険料

この制度によって、満二十才以上六十才未満の国民はすべて上六十才未満の国民はすべて強

制被保険者となる。しかしこの制度発足当時に五十五才をこえている者は適用を除外され、五十才から五十五才までの者は任意加入とされている。

保険料は二十才から三十四才まで月額百円、三十五才から五十九才までは月額百五十円である。

### ・拠出制の年金

老令年金は保険料を二十五年以上納めた者に六十五才から支給する。額は二万四千円から四万二千円。ただしこの制度発足当時に三十一才をこえる者は、十年か

ら二十四年に短縮される。障害年金は片手とか片足を失った者に支給され、程度の重いときは加算の措置がとられる。支給額は二万四千円から四万二千円である。

母子年金は一定の期間保険料を納めた者が夫に死別し、十八才未満の子を養っているときに支給される。額は一万九千二百円から二万五千八百円まで。前記の子が二人以上あると加算がある。

遺児年金は父母に死別した十八才未満の子に、七千二百円から一万五百円まで支給する。

寡婦年金は十年以上婚姻関係にあった妻が、必要の保険料を納めた夫と死別したとき、六十才から六十五才まで、夫の受けるべきであった年金の半額を支給

する。無拠出制の年金は制度発足当時に五十五才以上(任意加入者を含む)だった者が保険料納入能力がなく、拠出年金を受けることのできない七十才以上の者に一万二千円を支給する。

障害福祉年金は二十才以上の人で、日常生活の用を足すことが不能な程度の障害者に、一万八千円を支給する。

母子福祉年金は夫と死別して、現に義務教育終了前の子の生計を維持している者や、生計を維持しながら拠出制年金を受けることのできない者の、いずれも二十五才以上の子がいなくても二十才以上の子が支給される。(社会係)

### ある女教師の手紙

思い出の八月十五日がきました。あのころ、わたしは生徒でした。大君のために命を捨てたのでした。それが人間として最高の姿だと教えられたからです。まじめな生徒でした。

終戦のラジオ放送を、わたしは病床で聞きました。「死なないで生きてゆける」ということが信じられないような喜びでした。手のひらを返すように先生たちは、民主主義と人間性について説明ははじめました。わたしは「学校」をけしきく疑いました。何人もが病み倒れ、友の兄や

やまの話しをきかせてくれます。職場のようす、友人のこと、なやみ、希望など、幼なかつた子が社

昨年九月災害のツメ跡がまだ生々しいのに、わずか十月月後にまたまたそれを上まわる大災害である。被害額一億円といえ

ば町の一般会計予算を上まわる巨額であるが、その九割以上が仙田、橋地区に集中発生した。これは一世帯当たり約七万円、市町村民税の課税標準となった所得平均を越える数字である。おまけに昨年大い痛手を

受けた農家や、条件の悪い、低所得農家は被害の程度がひどい。文字とおり踏んだり、けったりである。▲昨年の災害も川西町付近だけの極端的な豪雨によるものであったため、人命まで失ったほどの規模でありながら、その後後に襲った二十一号、二号台風の陰にか

かれて、その筋の理解を得にくかったというところだ。今回の災害も各地で記録された雨量を比較してみても明らかのように、地域差が、いっそう極端で、同じ川西町であるが、千手においてさえ、そんな大災害が実際にあったのかと頭をひねりたくなる。これでは陳情攻めに慣れた国庫当局を動かすこと

の困難が思われる。▲町では例の特別追加で教員に当たることとなったといっても、町自体の力には限りがある。景気よしの所得倍増論もさることながら、「うち

の貧乏は水押し(水害)からであつたがんで、シシ」と遠い過去の例を引いて、早くもあきらめの色を示す老人や、「水稲共済金や税

の減免だけではどうにもならぬ」と嘆く若い農民の現在の苦境を何とかできないものだろうか。(M)

かなかなの鳴けばせかる、心地して

元町 鉄平  
金山 柏樹選

中仙田 遊人  
スイツチヨが窓に来て鳴く涼しさよ

岩瀬 桂子  
萩の花たれいる月の水辺かな  
学校町 正風  
さえずりの窓に朝の刻うつる  
大倉 洋石

アルバイト続け日やけて遅く  
#####

本紙は七月二十日付で、長野郵政局から第三種郵便物に認可されました。これまで御尽力いただいた千手郵便局のみならず、厚くお礼申しあげます。

◎この号は一部の地域をのぞき、発行日の前日(毎月九日)嘱託員さんあてに郵送いたします。

◎遅くも十日中には、みなさまのお手もとに届けられることとしよう。

な本号から、配布の依頼状(嘱託員あて)を略させていたいただきました。◎じつと汗ばむ夏、でも、夜のとりが明ければ、さるさるような暑さを忘れさせます。寝冷えしないでください。早起きして、ラジオ体操などはいかがでしょうか。

杉の葉に朝露たちて日ぐらしの  
声いさきよき朝ぼらけかな  
(直好)